

保護者と教員評価比較考察



教員の傾向

○「十分にあてはまる」より「ほぼあてはまる」と評価する割合が多い

- どの項目においても言える傾向となっています。
- 「成果や課題を明確にした指導」を見てみると、保護者の「十分あてはまる」は、70%～82%、教員は、20%～45%。
- 「交流及び共同学習の取組」においても保護者の「十分あてはまる」は、70%～80%、教員は、30%～50%。
- 「専門性を生かした指導」においては、「十分あてはまる」「ほぼあてはまる」がほぼ半数の割合です。
- 教員の自己評価が低く出る背景として、実施後次の課題を見据えてよりよいものを目指すため課題を意識しているためであると考えられます。

○キャリア教育の推進と職業教育の充実における課題

- 教員グラフ7、8、9において「十分あてはまる」の数値を見てみると〔小学部18%～35% 中学部20%～30% 高等部48%～58%〕とあり、学年が上がる数値が高い。高等部は、社会参加への出口として進路指導に重点が置かれている分キャリア教育への意識が高いと言えます。
- グラフ10「外部評価活用」については、「十分あてはまる」について見てみると〔小学部25% 中学部35% 高等部55%〕とあり、高等部における現場実習での活用が見えてくる一方で、小学部での活用の機会が少ないためと考えられます。
- グラフ3「自立と社会参加に向けた授業」においても、キャリア教育、職業教育の「充実については、「ほぼあてはまる」割合が80%となっています。



校内研修 研究授業後の協議の様子

自立と社会参加にむけて小学部から段階的なキャリア教育の育成のため、教職員の進路指導の研修の充実を図ってまいります。

保護者の方の交流及び共同学習への期待値の高さから、本校の児童生徒の理解啓発とともに更なる発信や深め合える活動計画を推進してまいります。